

2019年11月18日  
日本船主協会 海事人材部

## 荒川区立第三中学校「校内ハローワーク」への協力

当協会では「人材確保タスクフォース」を設置し、船員教育機関等と連携しつつ優秀な日本人船員（海技者）確保のための広報活動を展開しています。

この度、その一環として荒川区立第三中学校（東京都）の校内ハローワークに協力しました。

荒川区立第三中学校の校内ハローワークは、約30業種の社会人が講師となり、在生徒徒にその職業について紹介するという取り組みです。生徒が多くの職業の魅力や苦勞、やりがいを直接聞くことで、それらの職業に対する知識を深めることを狙いとしています。当校内ハローワークは今年で14回目を迎えました。当協会には2011年度より招請があり、今回で9回目の講師派遣となりました。

今年度は11月9日（土）に開催され、講師として川崎汽船株式会社より徳田一郎船長と置田昂文二等機関士を派遣しました。海技者の他、インテリアデザイナー、銀行員、消防士、漫画家など30職種の講師が招かれ、全校生徒478名がそれぞれの講座に参加しました。

3回実施された講座には、計46名の生徒が参加しました。そして、船乗りの仕事内容、船種や船の大きさ、海運が社会に果たしている役割や重要性などについて、船内の写真や動画を交えた説明を興味深く聞いていました。また、そのスケールの大きさに非常に驚いている様子でした。

さらに、「仕事で感じる喜びはどのようなことか」、「航海士・機関士になるために中学校生活で実践していくべきこと」、「船員への道のり」、「大きな事故に遭ったことはあるか」等といった質問がありました。

人材確保タスクフォースでは、今後もこうした若年層へのキャリア教育の場などに積極的に参加し、海技者の魅力を伝え、職業の認知度向上に努めていきます。



全体会の様子



講演する徳田船長(左)と置田二等機関士(右)